

1 番	朝井 賢次 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
<p>1 高齢者増加に伴うこの先の財政負担にどう向き合っていくのか</p> <p>【質問主旨】</p> <p>高齢化がさらに深刻になってくる今後、一番の懸案事項は社会保障費増大という財政の問題であると考えている。この確定事項ともいえる問題に対し本市はどこまで意識をして取り組んでいるのか質問し今後さらに進んでいく高齢化地域の将来像を提言する。</p>	<p>(1) 高齢者施策の現状と財政の今後について</p>	<p>① 本市の人口推計を基にして社会保障費を推計すると「介護保険や後期高齢者医療に係る費用が後期高齢者人口の伸びに比例して増加していく場合、2025年にはこれまでの2倍近くになる」と6次総に記載がある。歳出の社会保障費の割合が高くなれば未来への投資に使う予算が少なくなり市政運営において閉塞感が漂うと予想されるが、この財政的展望に対しての見解を伺う。</p> <p>② この先要介護者が増えていけば、当然支える側である介護職員の増員は必要になってくる。また市役所の担当課も業務増加のため増員をしなければならず、これらの人件費の増加は、今後さらなる財政負担になってくると考える。重ねて本市において各地域にある地域包括支援センターの職員は現在、人員不足の状態であり、この先何らかの対策を取っていかなければ前線である現場に支障が生じてくる。この現状をどう捉え今後どのように対応していくつもりなのか伺う。</p> <p>③ 福祉事業を財政的見地で評価することは「公共の福祉の増進」が題目である行政施策からすると以前であれば違和感があるように捉えられた。しかしながらこれからは限られた財源のなかで、より良い高齢者福祉を目指していかなければ今後本市は財政的に立ち行かなくなっていくと考える。現在本市が担当課を中心に高齢者を対象にした様々な施策を行っているが、これを推進していくことで①でもふれた「2025年にはこれまでの2倍近くになる社会保障費」の増加抑制に対しどれだけの効果があるか見込んでいるのか、また現在行っている施策に対しての評価と課題を伺う。</p>

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

1 番	朝井 賢次 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
	(2) 地域包括ケアシステム (瀬戸市も一やっこシルバーケアシステム) のこれからについて	<p>④ 現在本市が高齢者福祉計画において高齢者福祉施策の基礎として構築をすすめている地域包括ケアシステム (瀬戸市も一やっこシルバーケアシステム) を遂行していくことは「縦割り万能対応型」福祉事業に比べ財政的なメリットはどのくらいあると分析をしているのか伺う。</p> <p>① 高齢者福祉計画に「瀬戸市も一やっこシルバーケアシステムは市内7か所にある地域包括支援センターが核となって展開されていくものである」と記されている。したがってシステムの構築、推進は各支援センターと目的意識を共有し連携して取り組まなくてはと考える。そのためにはまず各地域の実態の把握をしていくための悉皆調査を行うことで効率的効果的なシステム構築に繋がると考えるが見解を伺う。</p> <p>② 高齢者福祉計画には瀬戸市も一やっこシルバーケアシステムに関しての課題として 地域住民の積極的な参加、移動手段の確保、買い物難民の解消などが挙げられているがこの課題は何を根拠に抽出されたのか。また解消に向けての対策をどう講じているのか、現時点での進捗を伺う。</p>

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

1 番	朝井 賢次 議員	
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)
	(3) 都市整備施策に高齢者対策を	<p>③ 瀬戸市も一やっこシルバーケアシステムは医療、介護、住まいの連携で構築していくということであるが、その為には地域住民に「健康」「運動」「介護予防」などに頻繁に関わってもらうことが大事であると考え。そのためにはまず住民が各々の地域拠点に集うための核となる“共通の事業”を仕掛けていく必要があると考える。誰もが楽しめ親しみやすい市独自の「健康体操」は健康高齢者増加のため大いに効果があり、それを広げ継続していくことは社会保障費軽減にも繋がっていくと考えるが見解を伺う。</p> <p>④ 地域包括ケアシステム（瀬戸市も一やっこシルバーケアシステム）を構築していく中で、より効率的なシステムを具現化していくと考えた場合、現在本市の都市計画マスタープランにある「多極ネットワーク型コンパクトシティづくり」とリンクして構築し、地域包括ケアシステムが行いやすい都市整備施策を推進すれば、お互いの計画の相乗効果が期待できると考え、本市においては菱野団地や水野団地が適地と考えるが見解を伺う。</p> <p>① 運転免許証返納などによって高齢者の交通弱者は年々かなりのペースで増えている。2025問題にあるように近い将来、市人口の半分が交通弱者になり外出機会が減ることが介護者や重病者が増える一因になることが予想され、これは社会保障費増大に繋がり、公共交通の重要性が今以上に高まっていくと考える。都市交通マスタープランを参照すると“傾向”は示してあるが“対策”が記されていないと感じる。マスタープランに記してある「超高齢化への対応」と「外出しやすい交通環境の確保」はどのように推進していくのか伺う。今後高齢者が外出しやすい手段としての公共交通を考えた時、現状どのような課題があるのか、それを解消していく為に何が必要であるか、具体像はどのようなものか伺う。</p>

(3 ページ)

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。

1 番	朝井 賢次 議員		
質問タイトル (大項目)	質問項目 (中項目)	具体的質問内容 (小項目)	
	(4) 住民自治に高齢者対策を	<p>① 現在本市は市内16箇所に地域力やまちづくり協議会があり、市補助金として上限85万円の予算を配し、各定例会には担当職員を配備して地域力を推進している。この本市における住民自治を具現化している地域力において現在、核として活躍している方々の年齢構成は60代から80代の方々が多数を占めている。この現状を本市はどうとらえているか伺う。</p> <p>② 今後各地域で増えていくことが予想される独居や要支援の高齢者とのかかわりづくりや日常支援に繋がる活動を誰がどう担っていくかはその地域で一番の懸案事項になってくる。この問題を我が事のように考えていける地域をつくっていくことがこれからの地域力に求められることであり、そのために健康福祉部や都市整備部、地域包括支援センターやまちづくり協働課が連携し「高齢者が快活で健康に過ごしやすいまちづくり」を各地域と協働で構築していくことが、各々の施策に作用していき、その積み重ねが将来に渡っての財政負担の増大の抑制につながると考えるが見解を伺う。</p> <p>③ ②を踏まえて、市役所は今後高齢者に対しての様々な課題を横断的、包括的、効率的に進めていく場合、また課題を地域で共有していこうと考えた時に現在の組織体制でよいと考えるか、市長の見解を伺う。</p>	

- 備考 1. 必ず、大項目を【1、2、3・・・】、中項目を【(1)、(2)、(3)・・・】、小項目を【①、②、③・・・】として明記し、質問内容、要旨等の具体的かつ明瞭化に努める。
2. 数値の答弁を求める場合は、必ずその旨を記載する。また、過去の経緯、他市の状況等の答弁を求める場合も、同様の扱いとする。
3. MS明朝体、12ポイントで記載する。